

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	「ストップ温暖化！流山プラン」(案) 修正案
1-1	8	トピックス「気温と二酸化炭素濃度の変化」	「気温と二酸化炭素濃度の変化」について、このような実際の観測値に基づいた説明は大変解りやすく、温暖化について身近に感じることができ、喫緊の問題であることが良く理解できました。しかし、現状のように気温変化と二酸化炭素濃度変化を並べて示す場合は、あたかも両者が関係しているように誤解を受けてしまいますので、この説明を補記すべきと思います。都市の気温変化に見られる温暖化傾向は、温室効果ガスに起因する地球規模での温暖化だけではなく、より局所的な都市化の影響との複合効果で生じています。実際にIPCCのレポートで報告されている全地球や北半球の温度上昇率の平均値よりも、東京等の気温変化から求められる温度上昇率の方が何倍も大きく、都市域においては地球温暖化の影響よりも、都市化の影響が極めて大きいことが指摘されていると思います。そして、都市化による温暖化は、ヒートアイランドに見られるような都市特有の条件にも影響されており、地球規模での気候変化とは形成メカニズムが異なります。このことを考えても、流山の気温変化＝二酸化炭素濃度の上昇ではありません。しかし、現在の文章では説明が足りないため、流山や銚子の気温変化と遠方の国内3地点の二酸化炭素濃度が関係していると誤った認識を与えてしまう恐れがあります。そこで、下記のような修正を行ってはいかがでしょうか。文字数に制約があるのは存じておりますが、是非ご検討下さい。類似の内容は資料にも書かれておりますが、本編にも説明付で書かないと誤解されると思います。第一段落末「～平均気温についても同様に上昇傾向が見られます。上昇傾向は*年* * * °C程度と見積もられますが、この値は地球温暖化として報告されている平均値0.85～1.06°C (IPCC第5次評価報告書)と比較して、対象期間は異なるものの*倍も大きいことが分かります。このような近年の大きな年平均気温の上昇は、本市だけでなく日本の各地の都市でも確認されており、本市においても地球温暖化だけでなく都市化等が影響していると考えられます。(改行)一方、地球温暖化に大きく関係する二酸化炭素濃度の変化については、気象庁の～」	ご指摘のとおり、都市の気温上昇には様々な要因が考えられますので、右記を追記します。	有り	「都市部の年平均気温の上昇は、地球温暖化のほか都市化によるヒートアイランド現象等の様々な要因が考えられます。」を追記。
1-2	表紙	計画名称「ストップ温暖化！流山プラン」	「ストップ温暖化！」に違和感を覚えます。このプランで主として行うことは二酸化炭素の排出量削減ですが、市単位で排出量を抑えたところで温暖化はストップしません。国として目標とする「ストップ温暖化」と自治体である流山市が掲げて目標とするスローガンは異なるべきです。流山市では市長をはじめ市役所の皆さんの努力により市民の環境問題の理解度は格段に向上していると思いますが、そのような中で従来からのスローガン「ストップ温暖化！」が継承されても現実味や新鮮さが無く、市が本気で実施しようとしているのか、市民として疑問を持ちます。流山でしかできない、流山らしい新たなスローガンを検討してみたいかがでしょうか。	本計画は、2020年度までの二酸化炭素排出量削減を定めた第2期計画「ストップ温暖化！流山20→20(ニコニコ)プラン」の中間見直しの位置付けとし、理念や計画名称等についても第2期計画を継承しており、環境審議会等からもご意見をいただき決定しています。	無し	
1-3	6	「6. 推進体制」	推進体制について、市の内部での推進体制は述べられていますが、市を超えた近隣自治体との連携は考えられていますか。例えば、現在の計画で推し進められる二酸化炭素の排出削減に集中した地球温暖化対策だけでなく、近隣自治体と連携して、流山市周辺のように地域を限定した温暖化対策を考えてはいかがでしょうか。温暖化の進行や影響範囲は行政界で制約されるものではありませんので、このような周辺都市との連携が極めて重要と存じます。	広域連携としては、千葉県地球温暖化防止活動推進センターや千葉県地球温暖化防止活動推進員と環境講座等での連携を図っています。国の地球温暖化対策計画にも「地方公共団体間の区域の枠を超えた協調・連携」が新たに定められており、事業の推進に当たっては広域連携も視野に検討していく必要があると考えます。	無し	
1-4	6	「6. 推進体制」	温暖化に関連して、流山市の気温変化に影響を与えているものは、いったい何でしょうか。例えば、地形や河川の特徴や土地利用等が影響を与えているのだろうと推察しますが、流山市の気温変化の特徴を市では把握されておられますか。スケールの大きい温暖化を考える上で、まずは自分たちの郷土が置かれた現状を把握することは極めて重要ではないでしょうか。もし明らかになっていない場合は、「流山市の温暖化」を明らかにする取り組みの推進を提案します。近隣の大学や研究機関と連携して推進することもあり得ると思いますが、可能であるならば、小学校、中学校、高校等と連携して課外活動や理科の授業の一環として、調査研究を進めてもらえると素晴らしいと思います。流山市の気温変化は、その地域差にどのような特徴があるのか、そしてそれは季節によって異なるのか、このように自分達が住む街の気温変化の特徴を知らないのに、二酸化炭素排出量削減といわれても、いまいちピンときません。温暖化を身近に感じて危機意識を持つことが温暖化対策を今以上に推進させる第一歩です。是非、二酸化炭素排出量削減を進める基礎として、「流山市における温暖化の実態把握、地域の学校と連携した調査研究の推進、児童・生徒の温暖化リテラシーの向上」をこの計画に盛り込んで頂きたいと思います。	市内の気温については、消防本部で測定している気温を統計書や環境白書で公開しているほか、平和台測定局の気温を常時千葉県ホームページで公開しています。また、小学生の環境学習としては、重点施策①の市の取組みに記載している全小学校4年生によるクリーンセンター見学時の「温暖化講座」のほか、全校による緑のカーテン事業の実施などにより、地球温暖化に関する啓発を行っています。	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	「ストップ温暖化！流山プラン」(案) 修正案
1-5	23, 24, 31	「重点施策③環境負荷の大きい自動車からの転換」	運輸部門における取り組みに「渋滞対策による二酸化炭素排出削減」が見当たりません。是非、実施をご検討下さい。例えば、流山橋の渋滞緩和が実現できれば、渋滞で無駄になっている化石燃料分の二酸化炭素排出量は必ず削減できます。せっかくエコカーを導入しても、渋滞しては効果も減ってしまいます。なお、このような取り組みは周辺自治体との連携が不可欠です。渋滞対策について、二酸化炭素排出量削減という観点からも、流山市が中心となり県や周辺自治体と一丸となって強力に推し進めて頂きたいと思えます。	渋滞対策について重点施策③の取組みに追記します。なお市では、車両や歩行者が安全かつ円滑な通行が確保できるよう市内道路網の整備を進めており、今後も計画的な道路網の整備を行います。	有り	・円滑な移動を行えるよう道路整備を行います。 →市民ニーズに応じた道路網の整備により、円滑な移動と渋滞解消を図ります。